

 SSC 完全参加と平等	～ともに生きる社会をめざして～ 第151号	編集 NPO法人 埼玉県障害者協議会 編集責任者 田中 一 〒330-8522 さいたま市浦和区大原3-10-1 埼玉県障害者交流センター内 TEL 048 (825) 0707 FAX 048 (825) 3070 メールアドレス ssk080321@bz03.plala.or.jp
	障害を理由とする差別をなくし、障害のある人もない人も分け隔てられることなく、お互いに人格と個性を尊重しながら、地域の中で共に手を取り合って暮らすことのできる社会、心のバリアをなくすことで障害のある人もない人も全ての人が参加しやすい社会『共生社会』を考える事が大切です。	発行 NPO法人 埼玉障害者センター 〒330-8522 さいたま市浦和区大原3-10-1 埼玉県障害者交流センター内 TEL・FAX 048 (833) 7027
		発売日 毎月10日、20日、30日
		定価 一部 100円(購読料は会費に含まれます) (共同募金からの助成金の一部で作成しています)



第46回きょうされん全国大会 in 埼玉 (8月30日・31日)

2770人が集う

きょうされん埼玉支部 事務局長 **ふるさわ 古澤** **きよし 潔**



2023年8月30・31日の大宮ソニックシティ、浦和コミュニティセンター、埼玉県障害者交流センターを会場に第46回きょうされん全国大会 in 埼玉を開催しました。参加者2770人(障害当事者1282人) ボランティア470人の規模で開催しました。

埼玉の地では4回目の開催となります。きょうされん全国大会は2020年は、新型コロナウイルス感染のため大会を中止、2021年は、オンラインでの大会、2022年は岩手陸前高田の地で開催し、今回新型コロナウイルス感染が2類から5類となって初めての開催となりました。「対面」で関東での開催、障害当事者の方もこの間、余暇や旅行も我慢を強いられており、今回の大会は、障害当事者が満悦できる企画と障害者権利条約を地域のすみずみにいきわたる企画としました。スローガンは「さけぼう 命の尊さ いだこう 人権の重み つなごう 平和への願い」としました。

1年前から、加盟事業所の写真を使っでのカウントダウンをX(前ツイッター)とインスタグラムで初めました。ツイッターのフォロワーが250名をこえました。

埼玉県障害者協議会を初め、県内の障害者団体、関係団体で大会実行委員会を構成し、2022年4月に第1回実行委員会を開催し、大会まで5回開催し、協力をいただきました。

大会では、国連障害者権利条約事務局チーフの伊東亜紀子氏を招いての特別講演、鼎談。埼玉ゆかりの団体リーダーからの発信の企画、文化企画では、ハンドルズ、国立東埼玉病院で結成された歩笑夢の音楽集団、さやか学園のさやかロックバンド、いもの子作業所のIMOバンドと埼玉から発信ができました。利用者部会(WA会)で当事者自身の手で企画、運営された「さいこうに たのしい まなびのば」も、今回、初めての取り組みとなりました。



2 日目は、川越散策、鉄道博物館、川口・スキップシティ、グリコピアの観光もおこない、埼玉の地を満悦していただきました。分科会では、利用者向けに民族歌舞団「荒馬座」、シンガーソングのさくまひできさんの協力のもと楽しい一日を過ごすことができました。

新型コロナウイルス感染で障害当事者も、外出も制限されており、今回の大会は、それを振り払えたものになりました。

また、「障害者権利条約を地域のすみずみ」という企画では、障害者権利条約を北極星としてこれからの障害福祉の方向性を示すものであり、昨年出された「総括所見」をどう租借して、これからの運動に結び付けていくのか、国連障害者権利条約事務局チーフの伊東亜紀子さんの示唆に富む講演と鼎談は、埼玉からの発信になりました。

分科会でも、実践を全国で交流がおこなわ

れました。

ボランティアは450人参加していただきました。実行委員会団体から、専門学校からと多くの方の協力で運営もスムーズにおこなわれました。参加者のみなさんにボランティアの方の「こんにちは」「ごくろうさん」と笑顔と声をかけられて、元気になったとの声も届いています。暑い、あつい、埼玉で熱中症の心配もありましたが、参加者、ボランティアの方からは症状も報告もなく、ホッとしています。

また新型コロナウイルス感染の第9波では、言われている中、参加者のキャンセルも当日もはいり、残念でしたが、大きな事故、トラブルもなく2日間の大会を終えることができました。

多くの方の協力をいただきました。紙面をお借りして、お礼を申し上げます。



第10回

埼玉県身体障害者福祉協会
埼玉県障がい者
共同作業所

私たちの災害の備えについて



近年、大震災以外にも台風被害や集中豪雨による洪水被害等が多発し、かつて「自然災害が少ない」と言われていたここ埼玉県でも、水害等の自然災害による被害が毎年のように発生しています。各障害者団体の災害発生時のための備え、防災や減災への取り組みや、抱えている課題、行政や政府・関係機関への要望等、「防災」を大きなテーマとして掲載します。



当施設での災害の取り組み

埼玉県身体障害者福祉協会
埼玉県障がい者共同作業所

所長 白石 欣彦



★【はじめに】

当施設は、昭和40年7月にさいたま市南区の住宅街に埼玉県の地所を借り受けて開設をした、障害者支援施設になります。事業は、「入所支援施設」「就労継続支援B型」「就労移行支援」「障害と高齢の訪問介護」をやっております。

ここに入所され生活されている方が30名（現在20名）と昼間は通所で作業に来る利用者と合わせて50名ほどの方が日々利用されています。

★【法規格の設備順守】

障害を持つ方が生活等をされる施設なので、障害者福祉法や消防法で、災害の対策や建物の基準などもあり、それらに準拠して備えはありますが、やはり万が一の災害となれば基準以上の準備は必要であると考えています。地震については、建物自体が令和7年の重鉄筋コンクリート建物なので新耐震基準を満たしており、建物内にはスプリンクラー設備は勿論、火災報知器が反応すると同時に消防署へ自動通報されるシステムになっています。

★【日々の訓練と行政との連携】

そのようなシステムも使用し、消防署立ち合いで行う利用者参加の避難訓練も年間計画に基づき実施しています。その都度、火災や地震で何時に？の想定で避難経路を使って利用者を誘導します。また、当施設は荒川水系の河川が近くにあることから、水害に対する備えも、さいたま市保健福祉局福祉部福祉総務課及びさいたま市南区災害対策本部等と日頃から連携し、市主催の訓練にも参加をしています。水災害の場合の避難場所の指定場所や地震災害の場合の対応等で、それぞれに危機管理マニュアルも整備し、訓練とは別に先ずは職員で把握しておくように努めています。



★【今後の対策】

これまで述べたのは災害発生時の対策で現在の取り組みと準備ですが、今後も引き続き職員や利用者への周知と訓練の実施が必要と考えています。

そして、現在災害後の対策となるBCP（事業継続対策）の作成をしています。施設設備のダメージによってその方法も多種多様に変化すると思われるので、想定されるおおまかな損傷から講じられる具体的な方法で作成し、有事に備えたいと作成をすすめています。

障害を持った方が生活や活動をされている施設なので、先ずは職員の動きを徹底し、みなさんの安全確保ができるよう日々意識しながら取り組んでまいります。

令和5年度 ケアラー月間について

趣 旨

埼玉県ケアラー支援条例の基本理念の実現のため、11月を「ケアラー月間」と定め、家庭や学校、地域社会全般にわたり、ケアラー支援に対する理解と協力の輪を広げるため、期間中に県、県民、市町村、事業者、関係機関、民間支援団体等が連携した啓発・広報活動を集中的に実施する。

キャッチコピー

誰かを支える
あなたも支える。

誰かをケアするケアラーも支えられる存在だということを、ケアラーのことを知らない人に伝えると同時に、ケアラー自身にも誰かに頼っていいということを伝える。



主 催

埼玉県・埼玉県教育委員会・埼玉県社会福祉協議会

第17回「塙保己一賞」表彰式・記念イベント開催

幼くして失明したにもかかわらず、学問の世界に果敢に挑戦し、文化史上未曾有の大文献集「群書類従」を編纂・刊行した「塙保己一」の精神を受け継ぎ、障害があっても、不屈の努力を続け顕著な活躍をしている方や、その支援者等を讃えることにより、障害のある人が様々な活動にチャレンジできるチャンスにあふれる共生社会づくりを推進するとともに、埼玉の偉人である塙保己一を顕彰する。

塙保己一大賞 塙保己一奨励賞 塙保己一貢献賞
それぞれ受賞式がございます。

日 時：令和5年12月16日（土）

会 場：本庄市児玉文化会館（セルディ）ホール

埼玉県本庄市児玉町金町728番地 2

編集後記

朝・晩涼しくなり今度こそ衣替えの時期となりました。思えば猛暑日の記録更新をした今年の夏は本当に暑くて長い日々でした。

秋になると我が家の柴犬の抜け毛が本格的になり日々掃除に追われそうです。

〈黒図〉

